

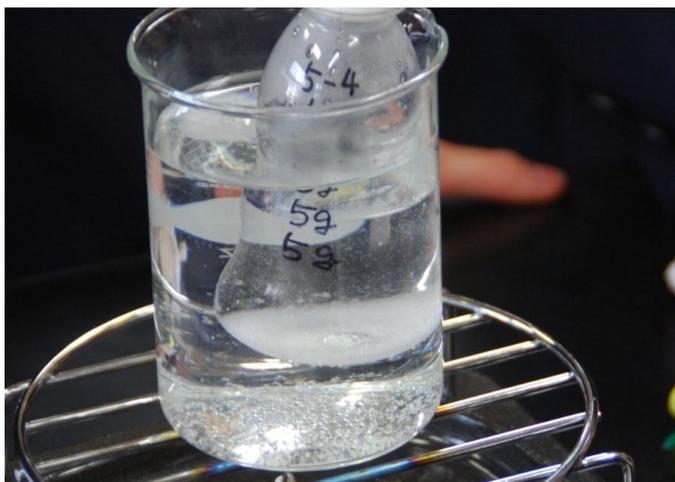
「R1 容器の小宇宙(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

R-1という乳酸菌飲料がある。120mlのペットボトルに入っていて、一口で飲める。健康にも良いので、私も週に数本飲んでいる。この容器が、理科では実にいろいろな場面で役立つ。



たとえばこれは、5年「もののとけ方」の実験の様子だ。ホウ酸を少しずつ投入し、湯せんをしながら溶かす実験である。蓋がついているのでその締め具合の調整で、水の蒸発を防ぐことができ、また攪拌も楽である。



R-1の容器は自然観察でも役立つ。先日3年生を学校の畑に連れて行くときに、ストックしてあったR-1の容器を一人ひとりに渡しておいた。この子どもの容器には、キンカンの実、ヘビイチゴの実、カラスノエンドウの実などが入っていた。子どもにとっては「自然の一部」を切る取った「小宇宙」なのだ。



この容器は、小さな虫の観察にも適している。このカラスノエンドウの一塊に、大量のアブラムシとテントウムシがいることを、この二人が発見した。



テントウムシは幼虫もアブラムシを餌にすることを知っていたこの子どもは、一緒に入れて観察を始めた。小さな容器なので、むしろ観察しやすい。



写真ではよくわからないが、このテントウムシの幼虫は、容器の中でアブラムシを食べていた。数人の子どもがその様子を食い入るように観察していた。昆虫の幼虫は、すべて草木の葉を餌にしている子どもが多い。その様子を初めて見た子どもは、「虫が虫を食べる」という「肉食性の幼虫」の存在は相当な衝撃だったにちがいない。